

テキスト

ブログで Web ページを作ろう！

第2章 ブログを見てまわろう

(2004/12 作成)

(2006/03 一部改定)

2.1 実録鬼嫁日記

(<http://yugure.ameblo.jp/>)

最初に見てほしいのは、九州在住のカズマさんが、奥さん(鬼嫁)との日常を面白おかしく描いた「実録鬼嫁日記」。とにかく理屈ぬきで笑える、この一点に尽きる。あれこれ説明しても意味がないから、ここでは日記の中から名シーンをいくつかご紹介する。といっても下記は一昨年(現在 2006/03/下旬)の記事。まだ無名時代の「実録鬼嫁日記」の中から。

なにせ、2005 はブログの爆発年。出版されベストセラーになるは、ドラマ化されるは、「実録鬼嫁日記」の当たり年。最近「実録鬼嫁日記2」まで出版されている。すでに皆様ご承知のとおり！

2004 年 10 月 20 日

この日、台風の影響でカズマさんが住む福岡地方は豪雨に見舞われていた。雨ガツパ姿でバイクに乗って家路を急いでいたカズマさんは、全身びしょ濡れ。そこに奥さんからケータイ電話がかかってくる・・・

嫁「帰りに大根買ってきてくんない？」

カズマ「大根？」

嫁「明日さぁ、おでんにでもしようかと思ってさぁ。やっぱ、おでんに大根はかかせないやん」

嫁は、俺の今の状況が分かっているんだろうか？ 熱湯コマーシャルで、全身ずぶ濡れになった松尾伴内のような情けない状況を。

カズマ「明日のおかずだろ？ 明日買えばいいじゃないか・・・この姿で、大根を買うのはちょ・・・」

嫁「はぁぁぁぁ？ 明日のおでんの大根を明日買えですって？ コンビニのおでんを最強って言ってるあんたには分からないと思うけど、おでんは前日から煮込まないと美味しくないのよ！ とくに味が染みこみにくい大根は、じっくり煮込まないと美味しくないのよ！いい！大根ってのはね・・・」

延々と、おでんの大根について自論を語りだす嫁。

風邪を引きそうなんだが(涙)おでんの煮込み方はよく分らんが、とにかく大根を買わないと家に帰れないということは、よく分かった(汗)

その後カズマさんが、びしょ濡れになりながら大根を買ったことは言うまでもない。

2004 年 10 月 14 日

この日カズマさんは、歯が抜け落ちる夢を見たとき奥さんに話した。

嫁「歯が抜け落ちる夢ですって…」

カズマ「ん？」

嫁「歯が抜け落ちる夢は新たに彼女が出来るって、夢占いに書いてあったわー」

カズマ「…」

嫁「浮気するんかい！クワッ！」

また出ちゃったよ嫁の不思議な夢占い。細木数子を師と仰ぎ、めざまし占いを毎日チェックする占いマニアの嫁…

嫁「浮気したら、30 万キャッシュ + 家族で、家族でディズニーランドだからね - 」

カズマ「30 万かよ。もうちょっと勉強してくれや(汗)」

嫁「アンタが浮気せんならいいだけの話しや！でも、そんなに言うなら、特典をつけてあげてもいいわよ。」

カズマ「特典??？」

嫁「10 年間、無事故・無違反だったら、3 万円のボーナスをあげるわよ！」

カズマ「アリコかよ！」

夫婦の日常というありふれた題材を、ここまで面白く描く筆力には恐れ入る。何を書くかではなく、どう書くか。これもブログにおける重要な鍵だろう。

2.2 やまけん出張食い倒れ日記

(<http://www.yamaken.org/mt/kuidaore/>)

農産物流通業者である「やまけん」こと山本謙治さんが運営するのが、この「やまけんの出張食い倒れ日記」。ここで取り上げられたお店には予約が殺到する、なんて話もあるほど熱狂的なファンが多いことで有名なブログだ。

その魅力の一因といえるのが、彼の豪快な食べっぷりと、とにかく旨そうな食べ物の写真の数々。日々更新される日記のなかでも、とくにやまけん氏の「食に対する情熱」が伝わってくるのが、2004 年の 9 月 7 日から書かれた「常夏の楽園・沖縄を食べ尽くすー」だ。

これは、やまけん氏が友人の案内で 5 泊 6 日の食い倒れツアーに挑んだ記録なのだが、その迫力は、ツアー初日のメニューからもうかがえる。

- 11 時 15 分……沖縄ソバ大盛りと「じゅうしい」(混ぜご飯)。
- 14 時……間食と称して天ぷら。
- 14 時 30 分……見学に行った観光農園でワイン 1 本と、ドラゴンフルーツ。
- 18 時……居酒屋で泡盛をたらふく飲みながら、スタガラス豆腐、マーミナー(もやし) チャンプルー、ゴーヤチャンプルー、ダルクン唐揚げ、ヒラヤーチー。
- 21 時……夜食と称してタコスとキノコ炒め、肉、鰻オムレツ。
- 0 時……締めと称してステーキ L サイズとスパゲッティの大盛り。

豪快な食べっぷりに、勘違いしてしまうかもしれないが、この「やまけんの出張食い倒れ日記」、決して大食いブログではない(^O^)。食の情報をエンタメ感溢れる筆で綴ってはいるものの、やまけん氏が伝えたいところはまた別にある。それが、彼が時折伝える「生産者の現状や消費者の意識改革」だ。

そんな主張を見て取れるのが、2004 年 11 月 8 日からのエントリー。この日、やまけん氏は、知人の焼き鳥

店関係者たちと地鶏のシャモを食べるためのキャンプに出かける。

ここでも彼は、美味しそうな食材や食べることの喜びを大いに伝えているのだが、その合間には、鳥インフルエンザ騒動で苦境に立たされているシャモ業者の現状を報告し「みんなで買い支えよう」とアピールする。さらに、その素晴らしい食材を、素晴らしい職人たちが調理した逸品を食べたやまけん氏は、こう述べる。

「いまだに『焼き鳥屋で一人7千円以上なんて高いよ』という声が聞こえるが、その根拠は何もない。生産者がどれだけ苦労をしてクオリティの高い物を出荷し、それを料理人がどのように捌き、焼いているか。その過程と結果が価格なのであって、味を見てもそれがわからないのであれば仕方がない。けど、それを理解し支援できる人口が少しでも増えてくれればなァ、と思う」

美味しそうな写真と文章を日々アップするやまけん氏が伝えたいのは、こうした日本の食文化の現状なのである。読者にとって有益な情報と美味しそうな画像という娯楽的な面を前面に押し出しつつも、主張を忘れない。個人発信のブログとして、これほど完成度の高いものも珍しいだろう。

2.3 食べたものを淡々と記録するよ

(<http://tabetan.2log.net/>)

それまで定期的に更新されていたブログが、ある日突然更新されなくなれば、誰もが少しは気になるものだ。2003年6月からスタートした「食べたものを淡々と記録するよ」(以下、「食べたもの～」)という、その名の通り食べたものの写真をアップする人気ブログの更新が止まったのは、2004年10月23日のこと。

2ちゃんねるが運営する“ちゃぶろ”と呼ばれるブログサイトを利用する「食べたもの～」には専用のコメントスレッドもあり、更新が止まった日の18時過ぎには、「今、新潟県で地震がありました...。おおじろうさんは大丈夫でしょうか...？ 長岡市は震度6弱らしいので心配です...。」という書き込みがあった。そう、この「食べたもの～」の作者である“おおじろう”こと大島氏は、新潟県長岡市在住だということをブログのプロフィールで公表していたのだ。本人の安否が分からないまま50件近い書き込み(呼びかけ)があり、ようやく25日の午前8時30分に「生きてます。長岡市役所に避難しています。災害中も記録しています。記録する・日記をつけることで正気を保っています」と本人が安否を書き込み、28日の昼頃からはブログの更新も再開されることに.....。

そもそも、「食べたもの～」が人気を集めた理由の1つには、食事そのものの盛り付けや見栄えの良さと、記録写真の美しさがあった。ところが23日の夕食としてアップされた写真は、暗闇のなかストロボの光に寒々しく浮かび上がる菓子パンと袋のままのウィンナーで、それまでアップされていた美味しそうな食事の写真とのギャップに誰もが絶句した。それからしばらくは避難所で配給されていたのであろう、おにぎりやお弁当などの写真が続く。これを見ていた誰もが、そこにリアルな震災の雰囲気を感じとったに違いない。

当時、新聞やテレビのニュースでも震災の様子はさんざん伝えられてはいた。しかし、それとは違う「なにが」をこのブログは確実に語っていた。大手メディアでは拾いきれない、極私的かつリアルすぎる現実。ブログの持つ力を再認識させられた出来事であった。

ところで冒頭でも触れたが、この「食べたもの～」は震災前から人気ブログだったためか、それと同じようなコンセプトで“淡々と”更新することを標榜するブログは食事関係以外にも多く存在している。代表的な例は、就職のために愛知県に上京した新社会人が更新しているブログ「新生活を淡々と記録するよ」(<http://blog.livedoor.jp/nishimachi/>) や、タランチェラの飼育日記である「こももの成長を淡々と記録するよ。」(<http://comotan.jugem.jp/>) などである。

ただ、どのブログもコメントが多く「食べたもの～」ほどの“淡々と”した雰囲気はない。なにしろ、「食べたもの～」には、震災時ですら、ほとんどコメントらしきものは記されていない。写真にタイトル名と手書きの「ごちそうさまでした！」の一言が添えられているだけ。潔いにもほどがある(〆)。しかし、多くを語らない姿勢こそが、写真の向こう側にあるものを想像させる糸口になっているような気もする。

2.4 deadman (deadman 2 deadman)

(<http://deadman.g.hatena.ne.jp/mohri/>)

(deadman 2 deadman <http://d.hatena.ne.jp/mohri/>)

山田風太郎の『人間臨終図巻』、『爆笑問題の死のサイズ』。訃報を扱った傑作本は数あれど、タイムリーさではネット発にかなうはずもなし。ブログシートの訃報系では、そのタイトルもズバリの「deadman」がとどめを刺す。何たって、人物の訃報はもちろん、中止に解散、倒産から休刊、終了まで、いろんな意味の“死”がフィーチャーされているのだ。

主だったトピックスをセレクトしてみると、訃報ではクロベエに中島らも、クリストファー・リーブ、ジャック・デリダにフランソワーズ・サガン。その他、イギリスの「キツネ狩り」の終焉、屋島登山鉄道「屋島ケーブル」の運転休止、ナベツネの退任などなど。

運営者の趣味からか、ミュージシャン系が目立つのが特徴だけど、いちいちバラエティに富みすぎなラインナップがツボ。カテゴリー「Rail」なんかに、作者の微妙な 鉄ちゃん 属性を発見する楽しみもあったりするわけだ。ニュース性にプラスして、読み物的にも楽しめる要素は充分。トピック「ドラえもん声優陣交代」を例に挙げると、大山のぶ代インタビュー、各声優の出演作リストといったオーソドックスなリンクを筆頭に、しずかちゃんの入浴遍歴グラフなどのネタ系まで、読者がモリモリ読むべきソースをバランスよくアップしているのが。

ジャイアン役のたてかべ和也は、トズラーとゴリライモの声も担当してたのか！ 大山のぶ代は『太陽にほえろ！』の脚本も書いてたのか！ みたいな小ネタも、ちゃんどゲットできるわけなのだ。今や読み物系ブログではトリビアの要素も見逃せないヒット要因だしね。しかし、「今日死んだ人を淡々と報告するよ」的な訃報録はブログに限らずネットにわんさどあるが、この「deadman」との違いは何だろうか？

それはやはり、他ニュースソースからの二次情報をフォローアップする付加テキスト、リンクの厚みだろう。例えば『ホットドッグ・プレス』の休刊にバブル時代のマニュアルデート文化を振り返ったり、『POPEYE』のたくましさに思いを馳せたり……。この日この時に死んだ人 & 消えていくものの立ち位置が、リンクやテキストから多角的に浮かび上がってくるのが面白い。それが、このサイトの特筆すべき点だ。

カッコよく言えば、故人をモチーフにして現代を浮き彫りにする！ ということか。きっと、「去り行く人・もの・コト」にこそ、今の時代が投影される、さらには読んでいる自分にまでその残照ははね返ってくる……。そういうことなのだろう。つまり、よくある「今日は何の日？」的に死亡記事をクリッピングするだけじゃブログたる意味がない。当該テキストがいかにキャッチーで面白かるうと。フィーチャーするテーマを羅列するだけじゃなく、“今、ここ”と常にリンクさせていく。このダイナミックな姿勢が、ヒットブログになる要因なのかもしれない。

2.5 水・水・水

(<http://dolce4.exblog.jp>)

(水・水・水 No.2 <http://dolce333.exblog.jp/>)

(水・水・水 No.3 <http://dolce44.exblog.jp/>)

良いブログをいかに作るか、という問いに対してよく提示されるのが、「テーマをどう絞る」という答えである。「ブログなんて、しよせん私的なメディア。気ままに発信すればいいじゃん」という考えも、もちろん正しいが、多くの人に読んでもらいたいと思うなら、このテーマの絞り込みはかなりの重要なポイントとなる。

そんな観点から見て「上手い！」と唸られたのがこのブログ。誰でもクォリティの高い写真が撮れるデジカメの普及で、とかく没個性になりがちな写真ブログ。そんななかで、見事、独自の個性を打ち出しているのだ。

タイトル通り、主役はいつも「水」。ただ一口に水といっても、ここで描き出される水の表情は驚くほど豊か。

小さな葉っぱの上に集まった水滴には、可愛らしさがにじみ出ているし(この写真に「これ以上は無理です」なんて葉っぱからのコメントが添えられているのが、微笑ましい)、夜の灯りに照らされた水には、幻想的な美しさが溢れている。また、水面に落ちる雨粒が作り出す波紋からは、幾何学模様のな神秘性すらも感じとれる。

水という狭いテーマを扱いながらも、アップされる写真の数々からは、様々な感動が伝わってくるのだ。流動的で多様な形に姿を変え、かつ濁ったり、透き通ったり……、動きもあれば、静寂もある。そんな表情豊かな「水」をテーマに選んだからこそその成功例と言えるだろう。

このブログ以外にも水族館をテーマにしたもの、離島の風景をテーマにしたものなど、興味をそそられるブログは多数ある。しかし、わざわざ出かけていかないと撮れないテーマでは、長続きしない。そういう意味でも、こうした身近なものをテーマにする姿勢は、日々更新するのが基本のブログに適しているように思う。

さて、本題からは少々外れるが、写真ブログには、この「水・水・水」がもっているテーマ設定の上手さ以外にどんなことが大切なのだろうか。ちょっと考えてみたい。

東京の街に生息するネコの表情を撮影して掲載しているブログ「だから東京が好き！ ブログ版」(<http://tokyo-gasaki.cocolog-nifty.com/blog/>)がある。このブログの特長は、数多あるペットの写真とは一線を画した、ネコたちの生き生きとした「野生の姿」を捉えている点だ。それに加えて流れを追った組み写真の面白さ。2004年9月28日にアップされた「チエー坊危機一髪！」なる日記には、ネコがネズミを追い回す一部始終が収められている。こうした動きのあるものを連続写真という形でアップするスタイルも見るとっては楽しいものだ。一方で毎日変化し続けるものを定点観測的に写し続けるのも、ブログの特性を生かした面白いアイデア。

「今日も天気がいい」(<http://aqui.exblog.jp/>)は、晴れの日も雨の日も、空だけを撮影し続けているブログ。一枚の写真だけを切り取って見ても、さほど面白さは感じられないが、これがずっと続いたとき、そこにはパワーが生まれる。もし地震があったとき、「このブログが地震雲をとらえていた！」なんてスクープを生み出すこと必至である。

写真ブログもアイデア勝負なのだなァー。

2.6 言戯

(<http://maruccho.way-nifty.com/sobae/>)
(第2巻 <http://kotozare.way-nifty.com/toshi/>)

ブログにおけるジャンルで、いちばん多いのが、身边雑記や日記というやつだ。言ってしまうと、特定のテーマはなし！「ボクの身の周りで起こったことを書くヨ」というブログである。このパンフレットの中では、わりと口ずさく「ブログはテーマを絞ることが大事！」なんて書いているが、そんなものなくても人気の高いブログはネット上にいくつも存在する。

ただ、そんな身边雑記系ブログで人気なのは、やはり作者が有名人である場合が多いようだ。眞鍋かをりやライブドアの堀江社長のブログが人気なのは、やはりみんなが知っている人物であるから……、一介のサラリーマンやOLが同じようなことを書いたところで、それほど人気が出るわけではない。

では、作者が有名でなければ、身边雑記系のブログは人気でないのかといえば、そうとも言いきれない。それは、この「言戯」(ことざれ)を見ればわかる。

作者は「そんちょ」さん。陶芸家である彼の野望は、

「生活雑器を作ったり、人に陶芸を教えたり、石釜でピザを焼いたり、ウェブログに日々の雑感を書いたりして細々と、日々平穩に暮らすこと」。

陶芸家という職業がちょっと特殊だが、別に陶芸のことをつらつらと書き連ねているわけではなく、扱うネタは

誰にでも起こるフツウの日常だ。

じゃあ、どのへんが魅力なのかってことを伝えるために、ひとつのエントリーをご紹介します。

11月24日。この日のタイトルは「男闘呼祭り」。「男闘呼」と書いて「おとこ」と読ませたいほど気合が入ったこの日のテーマは、な、な～んと「タイヤ交換」である(^O^)

「タイヤ交換というものは『力強さ』、『ワイルドさ』、『頼もしさ』、『危険な香り』という、さまざまな男闘呼っぷりが如何なく発揮される、まさに男闘呼の万華鏡。精液の匂いが漂うような雄の自分を激しく見せつける事が出来るのだ」(一部略)。

このエントリーが面白く感じられるのは、「そんちょ」さんの実際のキャラクターが、そういう男っぽいところからちょっとハズれているから。ずっとブログを読んでいけば、その優しい人間性は伝わってくるし、ビジュアル的にもそうなのだ。というのはこのブログ、毎回手製のイラストが添えられており、そこに彼が登場するのだが、イラストの自画像から受ける印象は、ほんわかタイプのお兄さん。そう、言い忘れたがこのイラストも「言戯」の人気を支えるポイントとなっているのは確かだ。

しかし、「言戯」は、単にイラスト付のブログという理由で、多くの読者を獲得したわけではない。本当の人気を支えているのは、この作者の「そんちょ」さんが、ブログを楽しんでいることに尽きる。こんな手の込んだイラストつきの記事を、8カ月の間に370回、平均すると1日あたり1.5回もアップしているのが、その何よりの証拠だろう。

2.7 リーリのお弁当

(<http://yaplog.jp/q0-0p/>)

女性をターゲットにしたポータルサイトのウーマンエキサイトが2004年2月、約1700人の女性に実施したブログについての意識調査によれば、約9割はブログが何なのかを未だ理解していないという結果が出た。

しかし、時間の経過とともに多くの女性がブログに参入するようになり、今では「化け犬.jp」(もちろん負け犬のもじり、<http://www.bakeinu.jp/>)なる女性専用ポータルサイトも、ずいぶん盛り上がっているようだ。

さて、そんな女性ブログの特徴として挙げられるのが、趣味や美容・健康など、ある特定の分野に特化したものが多いこと。例えば、手作りの料理や作品などの写真をアップしているものがやたらと目立つ。

そんななかでも「リーリのお弁当」は、料理(お弁当)をひとつの作品としてビジュアル的にも楽しませてくれるイチオシブログだ。作者は2歳と4歳の女の子を持つ母親で、“あんぼんマン”や“ハム太郎”などのキャラクターをモチーフにしたお弁当(通称キャラ弁)を作りつづけている。これがキャラの特徴をうまく捉えているだけでなく彩りも見事で、こんなお弁当を食べさせてもらえる子供は幸せだなあ、なんて思っていると...。ときおり「普通の三角のノリのおにぎりが良いの」(リーリ)などと、子供らしい痛烈なワガママなコメントも登場する。これに「いいけどさ、ラクチンだし」と強がって答えるママの心中を察し、こちらまでため息が出してしまうことも。

さて、この「リーリのお弁当」にアップされる内容は、基本的にお弁当の写真と制作過程についての説明くらいなのだが、作者は自分のWebページ(<http://plaza.rakuten.co.jp/kan1125/>)も持っていて、そちらの日記と並行してブログを眺めると、子供たちの個性が見えてきて、さらに楽しめる。ちなみに、ケーキや自家製パン作りもお得意のようで、食費を切り詰めたいときを中心に、たびたびパンメニューが登場している。

なお、「嫁にもらうならこんな女性を.....」なんて考えている男性諸君の妄想に水を差すようで恐縮だが、この家族は現在、新築二戸建てを建築中。旦那さんは32歳で専業主婦の奥さんも大卒で車は2台所有。これ以上は言わないが..... 分かりますよね。

ところで、キャラ弁の人気は想像以上に高いようだ。ハイレベルなキャラ弁ブログは他にも「++ママの手++」(<http://yaplog.jp/hobby-ruby/>)をはじめ多く存在する。いくつかを巡回していると分かるが、「ぼっ

ちんの幼稚園弁当」など、男の子供がいる場合は女兒を持つ家庭と異なり、仮面ライダーなど戦隊シリーズのキャラ弁が充実する傾向があるようだ。

2.8 エキプロ・メディカル

(<http://exhospital.exblog.jp/>)

ブログを書いている者同士が集まって、共同で運営するもうひとつのブログを作る。こんな単純な発想から生まれたブログが、これほどまでに様々な可能性を秘めたものになるのか.....と思わせてくれるのが、この「エキプロ・メディカル」だ。

このブログ、メディカルの名の通り医療関係者が共同で運営しているのだが、その利点は大きく分けると二つあるだろう。

まず、参加する側にとっての利点。つまり、ブログを通じて同じ業界の人間と横のつながりが持て、意見交換が可能になるということ。これは主に、トラックバック機能によって演出されている。

例えば、2004年の8月20日に出されたお題は「タバコ」。このお題には、合計40ものトラックバックが寄せられているのだが、そのいくつかを覗いてみよう。

「心筋梗塞、狭心症、脳梗塞で入院した患者さんは80～90%禁煙に成功します。死ぬ思いをした臨死体験がきっかけとなるネガティブな心理効果です」(スポーツ内科医)

「僕は...医者としては恥ずかしながら、スモーカー。しかも、医者になってから吸い始めたというふとときもの」(眼科医)

「私が勤める閉鎖病棟では、タバコは重要な気分転換アイテムなのでナースステーションで配っています」(ナース)

このように同じ医療関係者といっても立場や職種によって考え方は異なるようで、様々な意見がアップされるのが興味深い。普通の職場では言えないようなことも、ブログの中でなら気軽に発言できる。そこに共感する同業者がいて、横のつながり、一体感が生まれていくのだろう。

一方、読む側として面白いのは、医療関係者といっても、様々な専門分野の人が参加しているという点である。循環器外科に精神科、眼科に小児科、麻酔科に救急外来担当看護師の人まで、顔ぶれは多種多様。

この豊富な人材を生かした機能が、「エキプロ・メディカル」のもうひとつのウリ、一般の方からの質問の受付である。

ここは病院ではないので、医療相談はできない。メンバーには医療責任がない。もらった相談にどれくらいの期間で返答できるかわからないこと.....などは念頭に置く必要があるが、複数の医療関係者の意見を同時に聞ける機会などそうそうあるものではない。悩める一般患者にとっては頼もしい限りだ。例えば、2004年の9月2日には、「首こりと肩こりに悩まされています」という質問が寄せられた。

「地道な運動とストレッチが効果的です」

「タオルを丸めて首と布団の間に埋めるようにしてみても」

「筋肉のない人は肩こり、腰痛になりやすい傾向にあるのは確かです」

メンバーたちは、そんなふうにコメントやトラックバックを使って、様々な意見を発信してくれる。

メンバー相互のコミュニケーションの場としてだけでなく、オープンなスペースとして一般人にも開放されているこのブログ。こうしたスタイルが有効なのは、何も医療関係者だけに限ったことではないだろう。教育、福祉、介護.....もっと多くの分野の人々に参考にしてもらいたいと思う。

2.9 困ったときのベタ辞典 (<http://veta.seesaa.net/>)

【概要】「アコニット・レコード」なる集団が「ブログで何か面白いことができないか？」と始めた企画で、日常生活から小説や映画などに見られる「ある、ある！」といった感じの“ベタ”な言葉やシーンを辞典形式で掲載。読者投稿も受け付けている。

【例】例えばこんなベタな言葉が.....

- 舌でサクランボの輪が作れる人はキスが上手(恋愛語)
- これに好きな額を書きなさい(富豪語)
- 後は若い二人にまかせて..... (お見合い語)
- 私と仕事とどっちが大事なの？ (家庭の危機語)
- 家の中にまだ子供がいるんです (緊急語)

高校生カップルが「手が冷たい人は心が温かい」なんて会話を交わしながら、手をつないでウレシハズカシそうに歩いていると、「けっ、ベタベタじゃん」と思いますよね。自称“山師集団”である「アコニット・レコード」が運営する「困ったときのベタ辞典」なるこのブログには、この「手が冷たい～」などの“ベタ”な言葉やシーンが盛りだくさんなのであります。2004年1月末からスタートしたこのブログは、独特の脱力トーンで一躍人気となっています。

運営母体である「アコニット・レコード」はWebサイトも持っており、そこでも「困ったときの～」と同じ脱力系のプロジェクトが用意されています。これらを見ていると、様々なビジネスアイデアを生み出す老舗ブログ「百式」(<http://www.100shiki.com/>)と同様に、「アコニット・レコード」も大きなビジネスの可能性を秘めているように思うのであります。な～んていうオチも“ベタ”ですが.....

2.10 古今東西製品情報 (<http://www.seihin.com/>)

【概要】製品の「ひねり度」は の数で5段階表示。これまでに掲載の890品目中、五つ星を獲得したのは、唐辛子濃縮液をラミネートした動物忌避ゴミ袋と、どう持ってもすくい面が必ず上を向く水平維持スプーンの2品のみ。管理人の厳しい姿勢が分かる。

【例】飛び跳ねる豆「Mexican Jumping Beans」

蛾の幼虫が入っている豆で、たまに飛び跳ねます。検疫でひっかかるため、日本国内には持ち込めないそうです。4個入りパックで\$10.00。

ひと味もふた味もスパイスのきいたミョーチキリンな実在製品ばかりを紹介するカタログ・ブログの雄。紹介した商品はリンクをたどると、ほぼ購入可能という点もうれしい限りだ。

スパイス的な工夫として最も強く香るのが、関連商品リンク。アマゾンでいえば「この本を買った人はこんな本も買っています」のようなものと考えていただきたい。たとえば「ヒーター内蔵靴下」だったら つま先用ホックカイト サンダル用靴下 ヒーター内蔵手袋というリンクがついて、しかも矢印の違いでリンクの意味を示す芸まで搭載(詳しくはブログ参照)。

簡潔・客観を旨とする紹介文とは別に、蘊蓄をたっぷり披露する関連コラムや、管理人の主観的なコメント欄がついているのもチャームどころ。知れば知るほど欲しくなるといふ機微をわきまえつつ、フランクで人間的な演出も忘れません。

ビジュアル的には、テキスト色をあえて白にし、ポインタをあてるとリンクが浮かび上がるようにするなど、受け身になりがちな消費者に、自ら能動的に獲物を求めることの尊さを伝える工夫が見られます。先だつての中越地震の折には、「トイレ一体型ベンチ」なる製品をすかさず紹介するなど、時事にすぐ反応できる点でも、紙媒体と一線を画す優位性を証明。品選びの確かさにブログならではのギミックが加わった、当代きつてのと

んち系製品情報サイトであることはもはや確実。やっぱり大事なものは「思い出より、物でしょ」。

2006/03 現在、323 商品紹介中！

2.11 節約主婦 8 人のブログ (<http://blog.livedoor.jp/syuhu/>)

【概要】 独自の節約術を提案している参加者は、「節約はじめの 1 歩」「節約倶楽部」、「DECO BOX で節約上手」「1 日 1 節約！！」「節約！家計簿！虎の巻」「ろんぴの簡単節約生活」「FP 主婦のおいしい節約生活」「+ OL 主婦の節約生活」の各サイトの管理人。

【例】 100 円ショップグッズをテーマに語り合う

使える 100 円ショップグッズを主婦 8 人が写真で紹介している。台所用品、ガーデニング用品、クリスマスグッズなどなど、8 人それぞれのお気に入りの品が登場！情報交換の場としてもブログが機能しているのがよくわかる。

ブログの新しい可能性を感じさせてくれるのが、この「節約主婦 8 人のブログ」だ。タイトル通り節約主婦 8 人で運営しているこのブログ、単に複数で書き込みしているだけでなく、ひとつのテーマに対して各々のメンバーが発言していくという形式が面白い。

例えば「100 円ショップグッズ」というテーマの場合、kazu さんは、トイレで活躍しているグッズの数々を紹介。OL 主婦さんは、一人用土鍋などの利便性を報告。こにゃんさんはクリスマスグッズのデザイン性の良さをアピール。ろんぴさんは部屋の写真を公開して、そこにある 100 円グッズを逐一解説している -

このブログに参加しているメンバーは、全員が独自の節約に関するサイトを持っているから、彼女たちの節約術は、それぞれのサイトに行けば見ることができる。しかし、こういう形でひとつのブログ内で提案し合うという形態は、読み手にとっても楽しいし、各サイトへの読者誘導の面でも効果的ではないだろうか。

ここには、ひとつの可能性があると思う。現在、映画や書籍などのレビューをテーマにしているブログは数あれど、正直、これ！というものが無いのが現状だ。やはりものの見方というのは、多種多様であればあるほど面白い。そこで、「節約～」を見習って、複数の人間でレビューを発表し合うブログを作ってみてはどうだろう。これからはブログを個人的な情報発信ツールとしてだけでなく、コミュニケーションの道具として考えるのがよいかと。

2.12 ザイーガ (http://blog.livedoor.jp/parumo_zaeega/)

【概要】 doblog から livedoor に移転してますます旺盛なネタ拾いブログ界の波動砲。「けして万人向けではないのでそこんともちっい」とのことですが、これだけアクセスが多いってことは実は万人向けなのかも！人はちんこのみで生きるにあらず。

【例】 その辺に落ちている野糞にかたっぱしからブッシュの旗を刺していくそんな写真集

とりあえず道端にノグソが落ちていたのなら、お子様ランチ風にブッシュの顔のイラストが入った黄色い旗をインサートしていこう。そして記念写真をとった結果の写真集なのです。いいアイデアじゃんそれ、とか思ってしまった。早速ノグソを探しに行こうとも思った。(中略)。もったいないから食べちゃおうというオチだけは使わないようにしようとも思った。

海外おもしろトピックスやらB級ニュースやらエロ・グロ・ナンセンスな画像・動画やらをどっかからピックアップしてきて気のきいたコメントをつけて紹介..... ってスタイルのブログはたくさんありますが、この圧倒的な質&量を圧倒的と言わずして何を圧倒的と言うのか！（反語）という、とにかく圧倒的に圧倒的であるブログといえば、ここ..... 説明が要領を得ないのは、閲覧で精根尽き果てて筆者が「ザイーガドランカー」な状態だからであります。ボワ～ン。だって、毎日 10 本とか記事書いてその 10 本中 11 本は上質ときてるんですよ

「極東ブログ」は、そんな日本メディアの国際報道に疑問符を突きつけつつ、この人道問題を積極的にアピールし続けた。「日本ソースを活用せず、欧米ジャーナリズムから問題を見る」というスタンスが、この時くつきりと浮かび上がる。

ちなみに別コンテンツ(finalventの日記 <http://d.hatena.ne.jp/finalvent/>)ではあるが、「極東ブログ」運営者のfinalvent氏は、このダルフル危機を巡って毎日新聞記者とネットで対峙。プログラマーvs新聞記者というジャーナリズムにとってもエポックメイキングな論争を繰り広げた。

マスメディアが報道しないネタでも、いや、報道しないからこそ、機を見てガンガン発信していく。これこそブログという媒体の面目躍如だ。

そう、もともと「極東ブログ」のお家芸は、「～べき」なんていう曖昧な提言もどきに終始していたり、論旨に一貫性がなかったりする各新聞の社説比較検証もの。眼光紙背に徹して社説を批評していく様は圧巻である。このシリーズを「定点観測もの」としてウォッチするのもいいだろう。また、メディアが垂れ流すニュースにはいまいちハテナマークを抱えつつ、一定の視座をどう持てばよいのか途方に暮れている、そんな向きにもオススメしたい。

また、この「極東ブログ」からは、ダルフル危機紹介にしても、新聞記者論争にしても従来型メディアを越える、新しい場としての可能性がピンピン感じられる。

「米国ブログが既存ジャーナリズムを叩き潰した」

と過激に題されたトピックスには、こんなテキストがアップされている。

「おまえはなぜ極東ブログを書く？と自問。答えは、ブログがジャーナリズムを越えていくようすをいち早く見たいからだ」

「おまえはなぜブログを書く？」と、そんなギリギリの問いかけをしているプログラマーがネット上に果たして何人いるだろう？ 何よりもポジショニング。根っこをしっかり持つこと。

既存ジャーナリズムを叩き潰す準備は、極東の片隅でも静かに始まっているのだ。

(つづく)